

ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL82 平成30年4月



平成30年度 医療法人・社会福祉法人真誠会 有限会社メディカルフロンティア 合同入社式

4月2日、桜の花びらが舞い散るなか、合同入社式が執り行われました。今年は真誠会ホスピタウンレジデンス内の「日野原・小田記念ホール」にて行われ、新入職員29名、中途採用者15名の計44名が入社式に参列しました。

🌸 理事長訓示（要旨） 🌸

真誠会には二つのもっとも重要な理念があります。

流れ作業で仕事をするのではなく、皆さんの気配りや笑顔で人々を元気付ける、そして人々に喜んでいただける「感動ある医療福祉」を提供できるよう頑張ってください。

その前提になるのは一人一人が立派な人間でなければなりません、そのための理念が「人には愛を、自分には謙虚さを」です。謙虚な気持ちで、人の意見に耳を傾けるようにすれば多くのことを吸収できます。

また、新入職員はこれから沢山の困難と直面するがあると思います。

そのときに、「置かれた場所で咲きなさい」という渡辺 和子さんの言葉を思い出して下さい。原文は、「Bloom where God has planted you.」で「神様があなたを植えた所で咲きなさい」という意味です。置かれたところこそが、今のあなたの居場所なのです。入社しても、こんなはずではなかったとか、人間関係で困難に直面するがあると思います。そのときにこの言葉を思い出して下さい。皆さんは真誠会へ入社したことは、神様が皆さんを真誠会に植えられたのです。そして皆さんは、困難に耐えて真誠会で花を咲かせてください。

「人は、耐えることにより高められる」耐えるといつかは開けます。苦しみがあっても逃げることなく、神様があなた方を植えた場所が真誠会だと思って、根を生やし咲けるよう努力をしてください。

まだ知識や経験がなくても、皆さんの笑顔や愛情で人の心を救い、励ますことはできます。皆さんが将来、立派な看護師や介護士に育っていかれることを心から願っています。



平成30年度 春季新採用者研修 集中研修で学生気分も一掃！ チームで働ける組織人に 人間力を身に付ける

今年も真誠会では新入職員に対し、7日間の新人研修を行いました。高齢者に対しての介護・看護やりハビリの基本、また真誠会の理念・基本方針を学びました。技術や知識も大切ですが、真誠会が一番大事にしているのは、真誠会での仕事のあり方や価値観です。真誠会で働くことにより、人間的にも成長できる環境を提供していきます。



日野原・小田記念ホールでの採用者研修風景



7日間の研修が終わり小田理事長より一人一人修了証が授与されました



バス一台に乗って、ホスピタウンの各事業所の見学

こんなにたくさんの立派な施設があるなんてスゴいなあ

Viet Nam

**ベトナム訪問
外国人介護スタッフ
を探しに**

平成30年3月12日、午前10時に成田を经てベトナム ハノイへ向かいました。目的は、将来の介護人材不足を考え、ベトナムの介護スタッフ志望の学校の視察や、日本での仕事を希望するベトナムの若い人と面接し、運がよく良い人材に出会えば雇用の話をしてくるためでした。

飛行機に乗って雑誌を読み、音楽を聴いているうちに4時間後にはハノイ空港に到着しました。

ハノイ空港は3年前に日本の援助で作られたとても近代的な空港で、成田空港より近代的で

したが、大きな広告は韓国の企業のもので多く海外での躍進ぶりを示していました。

ハノイ空港で同じ目的で視察に来た同業の人たちと合流し、貸切りのマイクロバスでヒルトン・ハノイ・オペラへ行き、チェックインを済ませると直ぐに、日本への留学を目指して勉強している学校を訪問視察しました。



ドンドー日本語センターの学生と記念写真
皆さん笑顔が素敵です



タンタイ大学看護学科視察

その後同じような学校、看護の大学なども視察しましたが若者(主に女性)たちは、一生懸命に日本語を勉強していました。

同じ建物にある寮は、どれも狭い部屋に二段ベッドがたくさんあり、学生らは二段ベッドの下に寝て、上の段が勉強のためのスペースとして使われていました。カーテンなどの仕切りもなく、プライバシーも保てない状況下での生活、一段目のベッドにはマットレスもなく、御座一枚の上で寝ていることを知り驚きました。掛け布団が一枚畳んであるくらいでした。

日本の若者からは想像もできない環境だと思います。学生らの出身地では、ベッドもない掘っ立て小屋のようなところに住んでいるのが一般的な暮らしなのです。日本のように鉄筋の建物で、水洗トイレが当たり前の生活は、夢のようなところだと思っているに違いありません。

2日目には、日本で介護の仕事希望している10名の女性と面接をして、2名を採用予定者として決めました。翌日、その女性が通っている短期大学へ行くことができたので、2名のうちの1人と二度目の面会をして、面接に合格したことを伝え感想を聞くと、満面の笑みを浮かべ、「まるでシンデレラになったようで、まだ自分が選ばれたのが信じられない」と感激し、後日、同級生全員から祝福をもらったとのことでした。

これから一年をかけて、昼夜を問わず日本語を猛勉強することになります。日本へ来るための日本語の検定にはN1からN5まであり、日本へ来るためには最低N1を取得する必要があります。

介護は日本に来てから本格的に実習する必要があります。同時に日本語が最低N2にならないとなりません。そのため、今回面接で決めた2名はこれから一年間で、N3を習得すべく努力していくでしょう。

日本人の中には東南アジアの人を低く評価している人も多いと思いますが、実際には日本人より真面目で、勤勉で、熱意を持って必死に働きます。

一緒に行った事業者は、「介護の現場で日本人とベトナム人で力量の逆転が起きるのはと心配しているほどです」と語っていました。

私は確かに経済、政治、学問、文化でまだまだ遅れているベトナムですが、家を持つことを夢見て一生懸命に働くベトナムの力強さを感じ、このままではいつか日本が負けるのではという危機感さえ感じました。

ベトナムには3泊5日(一泊は機内泊)の日程でしたが、ほとんどが学校の視察とか学生との意見交換であり、観光はほんの息抜き程度でした。

帰りのハノイ空港のラウンジで、ベトナムでは最後になるフォーを食べ、その味を体に覚えさせて飛行機に乗りました。機内泊で、日本へ朝7時に成田空港へ到着しました。たった4時間、私が良く行く京都とほぼ同じ時間でベトナムに行っていたのかと思うと、本当に昨日までベトナムにいたのか、と不思議な感覚がしました。

来春には、今回面接した2名の女性を受け入れる準備の責任感と新しい時代の幕開けの喜びをかみ締めることができました。



大勢の学生の前で挨拶をする小田理事長



学生寮の部屋の中
二段ベッドの上で熱心に勉強する若者たち



採用予定者 2 名
「日本で働けることが夢みたくです」
日本の介護福祉士の資格取得を目指して

就任あいさつ



医療法人・社会福祉法人真誠会
統括本部長
前田 浩寿

このたび4月1日付で医療法人真誠会・社会福祉法人真誠会の統括本部長を拝命いたしました。統括本部長として、10年後、20年後の真誠会の永続的発展と地域の医療福祉サービスの提供に貢献できるだけの力を備えたリーダーとして成長できるよう、気持ちを新たに努力して参る所存です。

私はこの職務を果たすにあたり、第一に、ご利用者様にこれまで以上に質の高い医療・介護サービスを提供できるよう、真誠会のビジョンの実現に向けて全事業所の責任者と力を合わせ取り組んで参ります。第二に、職員がやりがいを持って働くことができる職場環境を整備すると共に、長年一緒に働いた職員が定年を迎えた時に真誠会と共に人生を歩めて良かったと感じてもらえるような法人になれるように取り組んで参ります。最後に、先の二つを

実行し真誠会の事業の継続性を担保できるように微力ではありますが、持てる力を発揮していきたいと考えております。若輩者で、力不足ではありますが、皆様からの今後とも、より一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

地域対策部長 就任ご挨拶

～地域の皆さんに寄り添い、さらに頼りになる真誠会として～



社会福祉法人真誠会
地域対策部長
石原 慎吾

このたび地域対策部長に就任しました石原と申します。よろしくお願い致します。昨年度、1年間にわたり弓浜地域包括支援センターでセンター長を務めてまいりましたが、地域活動のお手伝いや地域活動の仕組み作りのお手伝いを地域の方々のお力をお借りしながら進めてまいりました。これからは、米子市の受託事業である地域包括支援センターの仕事を離れて、社会福祉法人真誠会として地域貢献を今までに増して進めてまいります。

「地域対策」という名前は、少し固い感じがしますが、私の中では、「地域貢献・地域のお手伝い」という意味で理解しています。

独居高齢者世帯、老老介護、買物難民などの様々な問題に対する解決策の一つとして現在、国が進めている地域ケアシステムの構築について、地域活動の指針となるように正しく、最新の情報を提供し、進め方や具体的な手法などについて説明し、同時に地域の方々の声をよく伺い、課題を明らかにして解決に向けて一緒になって取り組んでいくことが役割だと認識しております。

小田理事長が、小田専務と共に進められてこられた地域貢献をさらにきめ細かく具体的な形にしていくことが出来ますように頑張りますのでよろしくお願い致します。



米子市弓浜地域包括支援センター
事業所長
松本 智美

今年度より米子市弓浜地域包括支援センターの事業所長に就任いたしました松本と申します。宜しくお願いいたします。

包括支援センターは4つの役割があります。1つ目は介護予防のマネジメント、2つ目は権利を守ること、3つ目はさまざまな相談ごとに対応する総合相談、そして4つ目は暮らしやすい地域のために行なう包括的、継続マネジメントの4つです。この4つの役割が十分に機能できるよう取り組んでいます。

信頼を持っていただけるような支援を常に心がけ、地域で何かあれば、まず包括支援センターに相談とさせていただけるよう、地域の皆様と関わりを持ち、住み慣れた地域でいつまでも安心して生活ができるような地域作りに取り組みたいです。地域の皆様に安心感を持っていただけるよう包括支援センターを目指したいと思いますので今後とも米子市弓浜地域包括支援センターを宜しくお願いいたします。

緩和ケア研修を受講して

真誠会セントラルクリニック 病棟医長 田原 誉敏

日本緩和医療学会は、がん診療に携わるすべての医療者が緩和ケアについての基本的な知識を習得し、がん治療の初期段階から緩和ケアが提供されることを目的に、教育プログラムを作成し、「日本緩和医療学会 PEACE プロジェクト」として実施しています（PEACE：Palliative care Emphasis program on symptom management and Assessment for Continuous medical Education）。

今回、我々真誠会スタッフは 2018 年 1 月 27 日、28 日に山陰労災病院の主催で行われた PEACE 研修を受講して参りました。井隼孝司先生を始め沢山の労災病院のスタッフの方が、休日返上かつ手弁当で二日間の緩和ケア指導とお世話をして下さいました。地域医療にかける情熱に頭の下がる思いで受講させて頂きました。この場を借りて労災病院のスタッフの方々にお礼を申し上げます。

今回我々が緩和ケア研修を受けたことで、真誠会セントラルクリニック全員の医師及び、大部分の看護師が緩和ケア研修を終えたこととなります。

緩和ケアとは、「病気に伴う心と体の痛みを和らげること」と定義されます。

がん患者さんと家族は、がんと診断されたとき、治療の経過、あるいは再発や転移がわかったときなどのさまざまな場面でつらさやストレスを感じます。今までのがん医療の考え方では、「がんを治す」ということに関心が向けられておりましたが、近年、患者さんがどのように生活していくのかという「療養生活の質」も「がんを治す」と同じように大切と考えられるようになってきました。患者さんを「がんの患者さん」と病気の側からとらえるのではなく、「その人らしさ」を大切に、身体的・精神的・社会的・スピリチュアル（霊的）な苦痛について、つらさを和らげる医療やケアを積極的に行い、患者さんと家族の社会生活を含めて支える「緩和ケア」の考え方を早い時期から取り入れていくことで、患者さんと家族の療養生活の質をよりよいものにしていくことが緩和ケアの使命です。緩和ケアを、がんの進行した患者さんに対するケアと誤解し「まだ緩和ケアを受ける時期ではない」と思い込んでしまう患者さんや家族は少なくありません。しかし、緩和ケアは、がんが進行してからだけではなく、がんと診断されたときから必要に応じて行われるものです。

私は、鳥取大学病院でがんの放射線治療専門医として勤務して参りました。今回の緩和ケア研修を通し、がん治療だけではなく、患者さんにご家族に寄り添うという視点と、多職種と連携して患者さんにご家族を支えるという視点を再確認出来たように思います。

真誠会は様々なリソースを持ち合わせた医療法人でございます。CT、MRI をはじめとする症状の原因検索が出来る診断機器があり、看護師や薬剤師がいます。ケアマネジャーや作業療法士など患者さんを支えるコメディカルスタッフがあり、病棟及び老健施設やサービス付き高齢者向け住宅などのご希望に沿った療養形態が取れる施設、自宅療養を支える為の訪問診療、訪問看護や訪問介護などの自宅訪問システムも整備しています。これら全ての真誠会のリソースを駆使し、その方らしい生活、その方らしい生き方を一緒に模索し、がん治療早期からのきめ細かいお手伝いや、ご家族の支援が出来るのではないかと、今回の研修を契機に改めてがん治療に対する思いを新たにしました。

今後も皆様を支え、皆様に寄り添えるようながん治療、緩和ケアを実践して参りたいと思います。



私たちが支援していきます

助け合いの社会を目指して

ボランティア団体・自主活動団体 意見交換会

超高齢社会の今、政府が強力に押し進めているのが共生社会であり、また、お互いに助け合う「我が事・丸ごと」地域共生社会です。

真誠会は約10数年前から共生社会の実現を目指してNPO法人がいなネットを立ち上げて、各ボランティア団体に参加していただき交流を行い、お互いの活動を紹介し、情報発信、啓発活動をしてきました。

その真誠会と、NPO法人がいなネットが、4月17日「助け合いの社会を目指して ボランティア団体・自主活動団体意見交換会」を日野原・小田記念ホールにて開催しました。

真誠会の施設（福米・和田 支え愛センター、オレンジカフェ各地）を利用している自主活動団体・ボランティア団体、河崎、加茂、和田、大篠津、富益、彦名地域の皆さん、米子市長寿社会課・3地域包括支援センターなど、約70人の方々の参加がありました。

前半は、小田理事長が「助け合いの合言葉は：GIVE & take」の講演があり、これからの超高齢社会における助け合いの大切さについて講演しました。次に各団体からの活動の紹介と5箇所：（和田・皆生・大崎・夜見・河崎）の活動がパワーポイントで紹介されました。

意見交換では、くじ引きで席替えをして、知らない方々同士で7つのグループに分かれてグループワークを行いました。今、問題になっているのは何か？（子どもの問題、障がい者の問題、地域の困りごとの問題など）をテーマに、テーブルごとに自由に話し合い、課題を見つけ、どうしたらいいのかを各テーブルでまとめました。初対面が多かったので、どの様になるか心配されましたが、予想以上に熱気に満ちた活発な意見交換が行われました。そして、まとめを最後に各グループごとに模造紙に大きく目標を書いて発表を行いました。

全体として言えることは参加者全員が、超高齢社会における助け合いの重要性と子どもなど弱者に対する配慮、理解、支援の重要性を理解していることがわかりました。

高齢者、障がい者支援者、自治会関係者、行政、それぞれが垣根を越えて話し合える場があり、とても有意義な会となり、参加者はこのような会を続けてほしいという声が上がっていました。

最後に、ゴスペルオーブの新しいチーム、「ゴスペルWAY」より、ママさん達、赤ちゃんを抱っこしながら歌を披露してくださり、大盛況のうちに会を終えることができました。



「GIVE&take」について講演を行う小田理事長



約70名近くの各団体の方々が参加されました



グループワークのまとめを発表しました



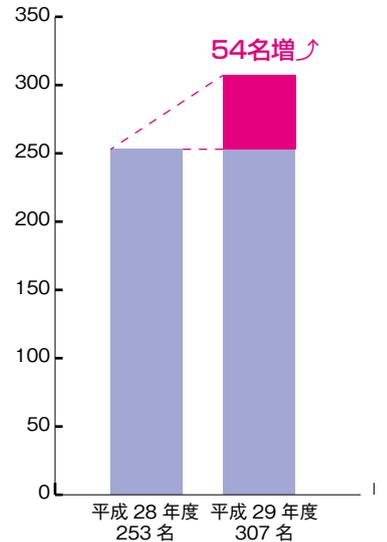
赤ちゃんを抱っこしながら歌うママさんグループ「ゴスペルWAY」

平成29年度実習生満足度調査

毎年、実習に来て頂く学生さんに実習しやすい環境・指導であったかをお聞きし、次回の学生指導に活かしています。

「自分の目標について学びを深めることが出来た」、「職員が、学生実習を理解してくれていたからスムーズに行えた」などの意見も頂いています。

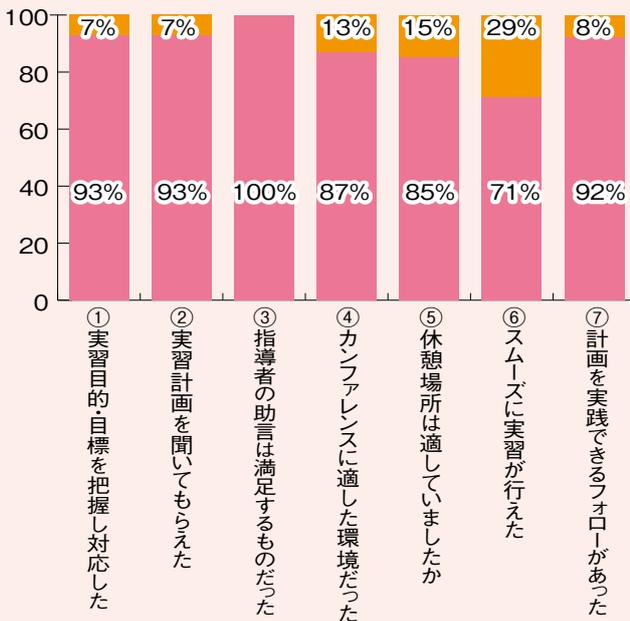
		平成28年度	平成29年度
1	鳥取大学医学部保健学科	128	177
2	鳥取大学医学部医学生	16	11
3	鳥取大学医学部附属病院T-HOC	4	3
4	鳥取市医療看護専門学校	6	5
5	米子医療センター附属看護学校	29	16
6	YMCA米子医療福祉専門学校	8	20
7	島根大学	0	1
8	島根総合福祉専門学校	0	3
9	鳥取看護大学	0	6
10	米子松蔭高等学校	0	2
11	米子北高等学校	8	20
12	境港総合高等学校	38	23
13	鳥取県ナースセンター	10	6
14	松江総合医療専門学校	2	3
15	広島国際大学	4	6
16	鳥取県社会福祉協議会	0	5
		253	307



去年が253名で今年が307名と、去年に比べて受入れ人数が54名も増えています。

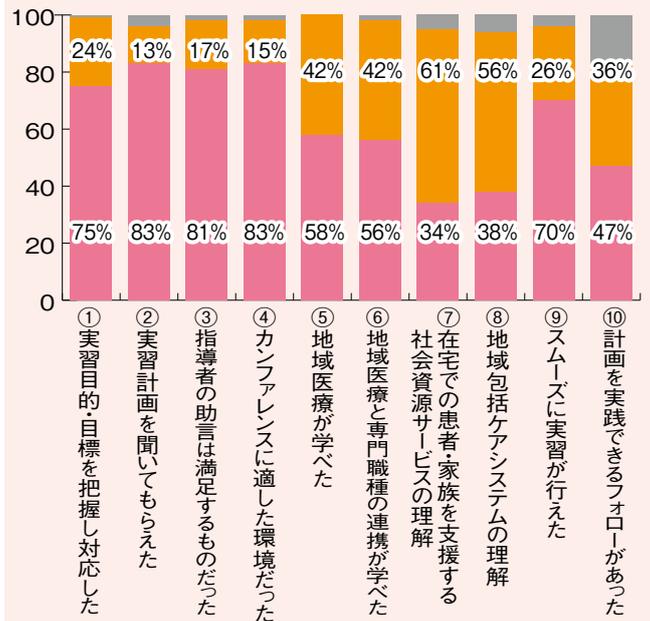
平成29年度 介護実習に関する学生満足度調査

■ 1. 不満 ■ 2. やや不満 ■ 3. どちらとも言えない ■ 4. やや満足 ■ 5. 満足



平成29年度 老年看護実習に関する学生満足度調査

■ 1. 不満 ■ 2. やや不満 ■ 3. どちらとも言えない ■ 4. やや満足 ■ 5. 満足



第30回社会福祉士国家試験

新しい社会福祉士が2名誕生しました！

社会福祉士は、病気や障がい、生活状況などさまざまな理由によって、日常生活を送ることが困難になった人の相談を受け、安定した生活ができるようにサポートをする仕事です。病院や高齢者施設、障がい者施設、児童相談所、学校、行政など幅広い分野で活躍をしています。

まだまだ高齢者福祉の分野での社会福祉士のニーズは高いですが、相談援助のレベルアップをはかり、今年度も多くの社会福祉士が誕生できることを目指します。

利用者様へ社会福祉士の資格をいかした支援ができるよう頑張ります



米子市弓浜地域包括支援センター
事業所長 松本 智美



米子市弓浜地域包括支援センター
木村 留美子

地域密着型福祉施設皆生ピースポート 開所記念講演会

皆生ピースポート開所から、5ヶ月が経ちました。

平成30年2月25日、「生き甲斐と喜びのある人生」と題して、小田理事長の基調講演がありました。地域の方、利用者、ご家族など約100名以上の参加があり、会場は満席で熱気に包まれていました。

昔は、人生50年と言われていた時代もありましたが、人生90年、100年時代と言われる現代。現役を引退（定年）してから死ぬまで約20年から30年あります。超長寿社会を迎えている日本ですが、定年後はどのような意識を持って生活を送っていかなければならないのか、今から老後の人生観、人生設計を真剣に考えていかなければなりません。

貯金が5,000万円あれば老後破産しないわけではなく、健康寿命を失うと、年間の赤字が100万円を超えたら、老後破産する可能性もあります。今まで、80年生きることを前提に人生設計していた人は、90年、100年生きることを前提に軌道修正する必要が出てきました。

人生の生き方、逝き方の著書も多数出版されています。それぞれの著者の特徴も踏まえながら、小田理事長のユーモアたっぷりの笑いある講演で、哲学や仏教の話もわかりやすい解説もあり、楽しい講演会でした。

漠然とした考えで日々を過ごすのではなく、自分がどのような暮らしをしたいのか、どのような目的をもって生きるかということが、生き方、幸福感につながります。遣り甲斐、生き甲斐をもって、人生設計を見直し、老後を充実したものにしていきましょう。

健康老人から「賢康老人」で、健康寿命を延ばしていきましょう！



会場からも、多数の質問をいただきました。

「孤独に慣れるには、どうしたらいいのですか？」
「どのような生き方で日々過ごしたらよいのですか？」

皆生ローズガーデン「真誠会の湯」

「ホカホカ、ツルツルの健康と美肌をつくる」温泉

昨年11月に開所しました、「皆生ローズガーデン」は温泉付デイサービスリハビリ強化型として各種筋力トレーニングの設備を整えています。訓練で汗をかいた後は温泉でサッパリと、冬は温泉で身体の芯までぬくもり血行を促進しリハビリ効果アップが期待できます。通所を利用し入浴をしていただいている皆様から、「身体の芯までぬくもる」「ぬくもりが違う」など大変に喜んでいただいています。

皆生温泉は入浴すると、含まれる塩類が皮脂を溶かして「石けん」をつくり、薄いヴェールをまとった状態になります。還元系の温泉ですから、肌の老化を防ぎ、健康にも良い効果をもたらすそうです。

ご利用されている方がつるつるしていらっしゃるの温泉の効能のようです。皆様も、通所をご利用いただき真誠会の湯で、ツヤツヤそして健康に!!



真誠会温泉

オレンジカフェ

皆生温泉に来てごしない

皆生温泉が発見されたのは明治初めの1900年。その昔、皆生海岸はイワシやアジの好漁場として、とても漁業が盛んであったこともあり、最初に発見したのも、浜辺で漁をしていた地元の漁師で、泡が吹き出ているのを偶然にも見つけたそうです。そこから1世紀以上、海中より湧き出す湯は、今では山陰屈指の名湯です。

研究報告



介護予防センター真誠会
事業所長 澤田 健太

平成29年度鳥取県西部地区医療連携協議会 「心不全患者の医療・介護の連携」シンポジウム

心不全患者に向けた運動支援を発表

医療と介護が連携して心不全患者とその家族等を支援するために、関係者と一緒に考え話し合うシンポジウムが鳥取大学医学部で開催されました。「心不全患者の抱える問題点」、「心不全再入院予防プログラム」、「心不全の在宅療養における課題」、「生活期での継続的な支援」の4つのテーマで発表議論がされ、その中で、生活期での症例発表をさせていただきました。

鳥取大学医学部附属病院リハビリテーション部から真誠会健康クラブへ紹介いただいた方に生活期での継続的な支援として、週2～3回の運動（エアロバイク・有酸素運動、マシントレーニング・筋力向上運動）を約1年間実施しました。その結果、運動機能の向上や運動習慣の獲得ができ意識変化がみられ再発の防止に繋がりました。今回の症例を踏まえ、今後より一層、さまざまな分野で医療と介護さらに地域の連携が必要だと改めて感じることができました。

無理なく運動を
続けて元気に
過ごそう



夏に向けて健康維持・仲間づくりしてみませんか？

真誠会健康クラブ 会員制運動施設

無料体験随時実施中

問い合わせ

米子ホスピタウン 河崎健康クラブ

電話 / 0859-29-0077

ご利用時間 / 8時～10時 15時～17時

介護老人保健施設ゆうとぴあ 介護の新しい形

パートナーシップ・ ナーシングケアシステムの取り組み

介護老人保健施設ゆうとぴあは、リハビリ施設であり3ヶ月を目標に在宅復帰を目指しています。その中で、今まではスタッフが入浴係、オムツ交換係など機能別にケアを行っていましたが、利用者の方にとって最善となるケアをより一層充実させていくために、担当受け持ち制を導入し、さらに2名のスタッフが全てのケアをトータルで行う方法「パートナーシップ・ナーシングシステム」の導入を検討することにしました。

そのため、昨年の6月に鳥取大学医学部附属病院に9名のスタッフが「とりりんパートナーシップ・ナーシングシステム」の体験学習をしました。

今年の2月から本格的にパートナーシップ・ナーシングケアシステムとして開始しました。現在では職員同士のコミュニケーションが増え、ご利用者のケアや課題等をタイムリーに相談・情報共有することができるようになりました。また、職員の教育的な指導をケアの場面で行うこともできるようになり、人材育成にも繋がってきています。





辻田耳鼻咽喉科
院長 辻田 哲朗

生きてるんだぞ〜

3月に鳥取マラソンがあり、今年も参加して来ました。今回で5回目の挑戦です。今年の目標はゴールまで歩かずに走りきることで、文字通りに「完走」することでした。ところが30km過ぎからふくらはぎがピクピクと痙攣し出して走ったり歩いたりになってしまい、そんな自分が情けなくなって、残念ながら目標は来年に持ち越しとなりました。そして最後はいつものようにへろへろ状態になりましたが、それでもゴールした時は「ヤッタぞー」と叫びたくなりました。いつも途中では「アー、エライ。脚が痛い。なんでこんな苦しいことやってるんだ。」とブツブツと思いながら走るのですが、ゴールしてしまうとそんなことも忘れて、達成感に浸れます。大袈裟ですが「俺は生きてるんだぞ〜」という気になってしまい、すぐに次はどこを走ろうかなと考え始めます。今回のタイムは去年より11秒遅かったです。40km以上を走ってきてたった11秒しか違わんのかよー。笑ってしまいました。

60歳過ぎるとマラソンを走れる喜びをしみじみと感じるようになってきました。こうやってフルマラソンを走るには当然生きてないといけないし、健康でないといけない。怪我をしていると走れない。さらに走ろうと思うやる気と、練習ができる元気、それを続けられる根気が要ります。ボクの場合フルマラソンを走りきるためには、たっぷり3か月のトレーニング期間が必要です。そうやって走れる喜びに感謝しながら、次のレースに向かって練習再開です。来年こそ途中で歩かずに最後まで走りきるぞー。



いえはら歯科
院長 家原 猛

2018 春

春は何かと節目の季節。加えて今年は感慨深い思いがある。私は広島県三次(みよし)市の出身。実家は、桜の名所尾関山(おぜきやま)公園から桜の木が並ぶ江の川の土手を歩いて数分のところ。幼稚園は尾関山駅から列車にのって三次駅近くまで通っていた。尾関山駅からの帰り道、春先には線路脇の道に土筆がたくさん生えていた。尾関山のすぐ下の江の川でもよく遊んだ。叔父叔母と一緒にボートを漕いだり、蛆虫を餌にハエ釣をしたり、いまでも尾関山トンネルから出てすぐ、丸いレンガの橋脚の鉄橋を渡るオレンジ色のディーゼル列車が目につく。次の駅は粟屋(あわや)だ。小学生になって父が初めてキャンプに連れて行ってくれたのが江の川沿い、船佐(ふなさ)の川原。当時式敷(しきじき)までだった三江南線が口羽(くちば)まで延長になった。夏にはホタルを見に行った記憶がある。そして1975年三次一江津間全線開通となる。それからでも43年。今年の3月31日で三江線は廃線になる。路線距離が100kmを越える廃線は本州では初めてらしい。

それまでに一度だけでも三次一江津間全線乗車を果たしたい。強い気持ちで残された日の中、三次発5:38浜田行きの始発列車に乗り込む方法を探った。前日きちんと診療をして、高速バスを乗り継いで三次駅に着いたのは11:45。寝袋持参。寒さに震えながら4:00、駅が開くのを待った。2両編成の始発を待ち構える勇者はいったい何人いるのだろうか?列車が発車する頃には列車内はラッシュさながらの状態。思い出深い三次駅から尾関山駅に続く1時間は残念ながら暗闇の中に封印され、多くの乗客で窓ガラスも白く曇る中、思い出は遠くなりけり。でも頑張っただけで眠らなかつたつもり。先着を争った勇者の神奈川県川崎から来た鉄道マニアは、2週間後また来るのだと。沿線の事など本当によく知っていた。口羽で列車はしばらく停車した後、石見地方の暖かな日差しの朝をゆっくりと進んだ。いくつものトンネルをくぐり、昨年参加した桜江町ピクニックランのコースや川戸駅、川平駅の再会も楽しめた。無事江津駅に到着したのは、9:31。春の穏やかな風とささやかな達成感を感じながら、山陰本線の帰路に着いた。

ケアハウスリバーサイド 着物でいきいき魅力発見！

ケアハウスリバーサイドでは着物の着付けの先生をお招きし、キーボードの生演奏、生菓子とお抹茶で楽しいひと時を過ごしました。

ピースポート（特養）、若竹庵（通所）からもご利用者、ご家族、またケアハウス入居者を含めて総勢 50 名の参加がありました。

似合ってるかしら？



当日天気は快晴で桜満開。先生コーディネートのお着物で、嬉し恥ずかしながらも極上の笑顔でお雛様と記念撮影をしました。やっぱり日本人は着物が一番、皆様本当におきれいでした。

ボランティアの先生方、感動の1日をありがとうございました。まだまだその余韻は続いております。



着付けボランティア青木幸子先生(左)と前田珠美さん(右) 車椅子の方でも素敵に着付けをさせていただきます

平成29年度 看護小規模多機能型居宅介護ふる里 日本財団福祉車両助成事業車両贈呈式

平成 30 年 3 月 27 日に贈呈式を行いました。日本財団から平成 29 年度福祉車両助成を受け、看護小規模多機能型居宅介護ふる里に福祉車両を購入いたしました。今までは軽乗用車で送迎を行っていたので、シートへの移乗の際ご利用者、介護者ともに体への負担と時間がかかりましたが、今回、スロープタイプの車両を配備することにより双方の負担を軽減することができます。



真誠会を代表して、上村施設長が挨拶を行いました

真誠会シャトルバスが新しくなりました

真誠会では米子ホスピタウンと弓浜ホスピタウンを内浜線経由、外浜線経由にて真誠会シャトルバス（福祉バス）を運行しています。このたび、シャトルバスが新しくなり、デザインも一新いたしました。セントラルクリニックをご利用の方、健康クラブへお越しの方、是非ご利用ください。



車体カラーが白色の基調となりました



車内も広々として乗り心地も快適

真誠会 シャトルバス 時刻表

発	着
真誠会 セントラルクリニック	弓浜ホスピタウン
10:25	→ 11:10
12:00	→ 12:46
16:25	→ 17:10
18:00	→ 18:46
弓浜ホスピタウン	真誠会 セントラルクリニック
8:00	→ 8:45
9:30	→ 10:16
14:00	→ 14:45
15:30	→ 16:16

※日曜日、祭日、木曜日午後
は運行ありません。

春爛漫 真誠会の桜特集

今年、例年より一週間開花が早く、見ごろをむかえました。
 真誠会の全施設の敷地には、桜の木が植えてあります。利用者やご家族、地域の方々の目を楽しませ、各施設では桜まつりが開催されました。
 外に出て、桜の木を見上げる、花のピンク、空の青、白い雲と美しいコントラストに、心地よい風とともに心が弾みます。

米子ホスピタウン 真誠会セントラルクリニック



真誠会セントラルクリニックの桜の前で、利用者が散歩に来ては写真をパチリと撮っています。満開の大きなソメイヨシノの下で、院長、患者さん、スタッフと共に記念撮影。
 「一日も早く体調が良くなりますように」と、桜もたくさんの花を付け、心も身体も癒してくれます。

外浜ホスピタウン 富益しあわせデイサービス



桜が綺麗に咲くのを見ると、新しい年度が始まったと実感します。
 富益しあわせデイサービスの桜は地域の皆様も写真を撮りにこられることも多くあり、地域に根付いた桜ともいえます。

弓浜ホスピタウン 介護老人福祉施設ピースポート



天候にも恵まれ、とてもにぎやかなお花見となりました。

「きれいねえ～」と喜ばれる方や中には感動して涙を流される方もおられました。今年もきれいな桜を見ることができました。長生きするといいいことがありますね。